

公 民 [倫 理] (100 点 50 分)

2017 年 12 月 6 日 (水) 1 限 実施

後期② 考查

千葉県立長生高等学校 第 3 学年 全組

Edited by K.Kataoka

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 解答用紙はマークシート式です。
- 3 受験番号はアルファベットを数字に直し、次の例のように 5 桁で記入してマークを忘れないこと。
例 3 年 D 組 1 番 → 30401
- 4 試験中に解答用紙の不足、問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 5 試験終了後、問題冊子は持ち帰って復習をするとともに、答案返却の際に持参すること。
- 6 センター過去問演習参加者は本日中にマークシートを社会科研究室前のボックスに提出のこと。
- 7 12 月 7 日 (木) 13:00～15:30 社会科講義室にて中国思想(朱子学・陽明学、道家思想)イスラム教の課外を行います。希望者は社会科研究室前の参加希望者リストに名前を書いておいてください。

(解答番号 [1] ~ [50])

– 3 –

問3 下線部(a)に関して、仏典結集についての記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[5]

- ① アショーカ王の時代にも仏典結集が行われたという伝承がある。
- ② 仏陀の侍者アーナンダを中心に結集されたのが論蔵である。
- ③ 仏陀の弟子ウパーリを中心に結集されたのが経蔵である。
- ④ 第一回結集は仏陀入滅直前に行われ、弟子たちは仏陀に直接教えを授かった。

問4 下線部(b)に関して、四諦についての記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。(2015年センター本試験)[6]

- ① 滅諦とは、煩惱の滅した安らぎの境地があるという真理を指す。また、道諦とは、そうした境地に至るための、極端に陥ることのない正しい修行法があるという真理を指す。
- ② 苦諦とは、人間の生の有様は苦しみであるという真理を指す。また、集諦とはそうした現実のゆえに、心の集中が妨げられ悟りが得られないという真理を指す。
- ③ 滅諦とは、あらゆる存在はいつか必ず滅ぶという真理を指す。また、道諦とは、そうした道理を心に留めて、禁欲的な苦行を実践すべきであるという真理を指す。
- ④ 苦諦とは、人間は誰しも、苦しみを嫌い楽を求める心をもっているという真理を指す。また集諦とは、そうした思いが積み重なって煩惱が増大するという真理を指す。

問5 下線部(c)に関して、四苦に加える八苦についての記述として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。[7]

- ① 愛するものに会うことができない
- ② 怨み憎むものと出会わなければならない
- ③ 求めても得ることができない
- ④ いっさいは苦に満ちている

問6 下線部(d)に関して、男性在家信者をあらわす語として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[8]

- ① 比丘尼 ② 比丘 ③ 優婆塞 ④ 優婆夷

問7 ブッダがはじめて教えを説いた際に語ったとされている中道についての説明として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。[9]

- ① 欲楽に耽ることと苦行に努めることを否定し、その中間の道で修行すべきであるということ。
- ② 勇気は無謀と臆病の中間的な状態である時はじめて徳として現れるように、人間の行為や感情において、超過と不足を調整すること。
- ③ 過不及のない平常の道理で、道理は天に基づいて人間に本性として賦与される。本性に従って喜怒哀楽の中和を得ること。
- ④ 主観も客観も、精神も物質も、「一」と「多」を入れ替えつつ、その直後に「無」に肯定されることによって、その矛盾したはたらきを失うことなく自己同一されること。

問 8 ブッダがはじめて教えを説いた際に語ったとされている八正道についての説明として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。[10]

- ① 正思とは、正しい見解のことであり、四諦の一つ一つをよく知ること。
- ② 正定とは、正しい禅定のことであり、精神統一を正しく行うこと。
- ③ 正精進とは、正しい生活のことであり、法にかなった衣食住を行うこと。
- ④ 正語とは、正しい行いのことであり、盗み、殺生、邪淫を否定すること。

問 9 慈悲についての説明として**適当でないもの**を、下の①～④のうちから一つ選べ。[11]

- ① 「慈」はサンスクリット語のマイत्रीにあたり、深い慈しみの心をさす。
- ② 生きとし生ける者を愛するのが慈である。
- ③ 「悲」はサンスクリット語のカルナーにあたり、深い憐みの心をさす。
- ④ 生きとし生けるものの不幸を抜き去るのが悲である

問 10 古代インドの仏教では食事の作法を含め、様々な規則が定められた。その説明として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。(2014 年センター追再試験) [12]

- ① 出家者は、修行に専念するため、在家信者ほど厳しい生活規則は課されなかった。
- ② 五戒の受戒は、ブッダ、仏教の教え、僧侶集団の三者に帰依した出家者のみに許されていた。
- ③ 在家信者は、不飲酒戒、不殺生戒、不邪淫戒などの五戒を遵守することが求められた。
- ④ 在家信者も出家者も、無所有などの五戒を守ることによって、煩惱から離れることを目指した。

— 6 —

問2 下線部(a)に関して、慈悲についての記述として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。[16]

- ① 人びとに楽を与えることと人びとの苦を抜いてあげること。
- ② 生きとし生けるものを苦から救済する利他行。
- ③ 衆生へのあわれみの心、いつくしみの心。
- ④ 家族愛に根ざすまごころとおもいやり。

問3 下線部(b)に関して、菩薩の道である六波羅蜜の内容として**適当でないもの**を、次の①～④から選べ。[17]

- ① 身命 ② 智慧 ③ 布施 ④ 精進

問4 下線部(c)に関して、即身成仏を重視する密教の根本仏として最も適当なものを、次の①～④のうちから選べ。[18]

- ① 阿弥陀如来 ② 大日如来 ③ 薬師如来 ④ 釈迦如来

問5 下線部(d)に関して、次の竜樹『中論』本文を訳を参考にして読み、空欄【A】に入る語として最も適当なものを、次の①～④から選べ。[19]

・ 本文（『中論』観四諦品第二十四，十八偈）

衆因縁生法 我れ即ちこれ無と説く

亦た是れ仮名（けみょう）と為す 亦是れ【A】の義なり

・ 訳

およそ、縁起しているもの、それを、われわれは空であること（空性）と説く
それは、相待の仮説であり、それはすなわち【A】そのものである。

- ① 因果 ② 意識 ③ 中道 ④ 渴愛

問6 下線部(e)に関して、唯識派思想を継承して玄奘が立宗した宗派として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[20]

- ① 法相宗 ② 華嚴宗 ③ 成実宗 ④ 三論宗

第3問 次の文章を読み、下の問い（問1～問5）に答えよ。（配点 22）

中国思想の本格的な展開は、(a)春秋時代後期から戦国時代にかけての時期（前6世紀末～前3世紀末）に始まる。中国思想史上第一の黄金時代で、諸子百家とよばれる数多くの学派・思想家が輩出した。そのうち主要な思想家群は、儒家、墨家、名家、道家、法家、陰陽家の六家であった。もっとも早く現れたのは儒家で、孔子を祖とし、孟子、荀子らに受け継がれて発展し、有力な学派となった。儒家は伝統的な礼に立脚し、人倫の秩序と道徳を重んじ、それを実践できる人格（徳）を身につけることを目指し、そのために仁・義・礼・智などの徳目を説くとともに、その成果を政治の場に拡大して徳治を主張した。この「優れた人格の形成」とそれを基盤とする「徳治」の構想は〔 21 〕の道とよばれ、以後長く儒家思想の基本をなした。墨子によって代表される墨家は、儒家と同様に仁や義を説く一面もあったが、半面、(b)儒家を批判し、兼愛交利、節用、非攻など、功利主義的な主張をした。

恵施・〔 22 〕などに代表される名家は、人の認識や言語の論理を分析し考察した。現在残っている名家の資料は「白馬非馬」のような詭弁の命題が多いが、正当なものとしては「至大無外」「至小無内」などのように「絶対」あるいは「無限」の観念も自覚的に論ぜられた。道家の「無」の思想の成立は右の名家の論理に関する考察の成果と無関係ではなかったと思われる。『〔 23 〕』『莊子』によって代表される道家の思想は、人はその無なる道に従って生きるべきだとして「〔 24 〕」を説き、世俗の常識的・相対的な価値観にとらわれることなく、もろもろの執着を超越して絶対の境地に至ることが真に自己を全うする生き方であるとした。

商鞅と(c)韓非子とによって代表される〔 25 〕は、儒家が重んずる自然発生的な不文律「礼」を時代後れのものとして否定し、時代の変化に適合した法（実定法）を制定・公布するとともに、信賞必罰主義によって、貴族・平民を問わずその法を厳格に守らせ、かつ民衆を農業生産と兵戦に精勤させうるとし、そのようにして富国強兵を図り、君主権の強化を目指した。陰陽家は〔 26 〕に代表される、一種の自然哲学および歴史哲学をたてた人々で、(d)陰陽と五行を原理として自然界・人間界の万般の事象の成立・変化の諸相を説明しようとした。以上の六家のほかに、〔 27 〕が農業生産の重視を説く農家、合従連衡など外交上の策略を論ずる縦横家、兵法を論ずる兵家などがあり、また複数の学派の思想をあわせ含んでいて特定の一家の思想とみられないものは雑家とよばれた。

問1 文章中の空欄〔 21 〕～〔 27 〕に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

- 〔 21 〕 { ① 格物致知 ② 修己治人
 ③ 居敬窮理 ④ 温故知新

- 〔 22 〕 { ① 孫子 ② 公孫竜
 ③ 鄒衍 ④ 許行

- 〔 23 〕 { ① 老子 ② 孟子
 ③ 大学 ④ 中庸

[24 { ① 無為自然 ② 徳治主義
 ③ 性即理 ④ 直指人心

[25 { ① 名家 ② 農家
 ③ 法家 ④ 陰陽家

[26 { ① 孫子 ② 公孫竜
 ③ 鄒衍 ④ 許行

[27 { ① 孫子 ② 公孫竜
 ③ 鄒衍 ④ 許行

問2 下線部(a)に関して、この当時の中国の王朝の名称として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[28]

① 周 ② 殷 ③ 秦 ④ 夏

問3 下線部(b)に関して、墨家の儒家批判の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[29]

- ① 儒家の説く礼楽は人為の道であり偽りの道である。作為を廃して天の道に従うことが安天下の道である。
- ② 儒家の説く智の徳は無益な受験競争をもたらす。科挙を廃して実践的な行動力のある者を登用すべきである。
- ③ 儒家の説く義は、それを貫徹しようとする争いが発生してしまう。防衛戦争も含めてあらゆる戦いを認めるべきではない。
- ④ 儒家の説く仁愛は差別的な愛である。自分と他人を区別せず、すべての人を愛するならば争乱はなくなる。

問4 下線部(c) に関して、次の『韓非子』の守株の文中の空欄 [30] に入る語として最も適切なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

宋人有耕田者。田中有株。
(宋人に田を耕やす者有り。田中に株(くひぜ)有り。)
兔走触株、折頸而死。
(兔走りて株に触れ、頸を折りて死す。)
因积其耒而守株、冀復得兔。
(因よりて其の耒を积てて株を守り、復た兔を得んことを冀ふ。)
兔不可復得、而身为宋国笑。
(兔復た得べからずして、身は宋国の笑ひと為る。)
今欲以 [30] 之政、治当世之民、皆守株之類也。
(今 [30] の政を以つて当世の民を治めんと欲するは、皆株を守るの類なり。)

- ① 律令 ② 霸道 ③ 先王 ④ 無為

問5 下線部(d)に関して、陰陽五行説に関する記述として**適当でないもの**を、次の①～④の中から一つ選べ。[31]

- ① 五行とは木・火・土・金・水の五つをいう。
② 理と気の二元論によって万物が生まれ、その消長が変化をもたらすと考えられた。
③ 陰陽五行は宇宙の生成、自然のめぐり、統治のあり方、人体のしくみなど、宇宙から人事にいたるあらゆる現象を説明するのに用いられた。
④ 天体においては月と太陽が、それぞれ陰と陽にわりあてられ、惑星も五行に配当された。

第4問 次の文章を読み下の問い（問1～問6）に答えよ。（配点 20）

孔子は、社会秩序を実現するには、「これを導くに政を以てし、これを斉うるに刑を以てすれば、民免れて恥なし。これを導くに〔 32 〕を以てし、これを斉うるに礼を以てすれば、恥ありて且つ格し」と考えた。為政者みずからが、まず道徳的体现者である〔 33 〕たることを目指し己を修め、その感化によってこそ人を治めることができると考えたのである。

また『論語』に「怪力乱神（怪しげな力や神秘）を語らず」とあるように、孔子は神秘的なものに積極的な関心をもたなかった。また「いまだ生を知らず、いづくんぞ〔 34 〕を知らんや」と、あえて〔 34 〕の問題を語ろうとしなかった。もっぱら孔子の関心は「朝に道を聞かば、夕に〔 34 〕すとも可なり」とまでいった道にあった。もっとも彼は、富貴や名誉を望むこと自体を否定しようとはしなかった。孔子はただ、それらの欲望を正しい道によらないでもとめることを否定したのである。

孔子はこの道を、心のもち方としての仁と、形としての〔 35 〕の二つの側面からとりあげている。心のもち方としての仁は、孔子自身もさまざまなしかたで説き、弟子たちもさまざまなに解釈しているが、それはまず何よりも「人を愛すること」である。「〔 36 〕なるものは、それ仁の本なるか」というように、仁は親子・兄弟の間に自然に発する親愛の情として示されるものであり、それをさまざまな人間関係におしひろめていくことであった。孔子が他人に対する心のもち方として説いたことは、まず自分のわがまま、私利私欲をおさえることであり、(a)人の心を思いやることであった。それは具体的には、「己の欲せざるところは人に施すことなかれ」であり、「己立たんと欲して人を立て、己達せんと欲して人を達す」、などであった。そしてさらには、常に自分を欺かず、(b)まごころから人に接して人を欺かないことなどがもとめられた。このような心のもち方は、すべて仁をなす心のもち方であり、人間はいついかなるときでも、心に仁を守るべきであると説いている。

問1 文章中の空欄〔 32 〕～〔 36 〕に入る最も適当な語を、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

〔 32 〕

① 法	② 力
③ 礼	④ 徳

〔 33 〕

① 真人	② 君子
③ 大丈夫	④ 至人

〔 34 〕

① 神	② 魂
③ 死	④ 霊

〔 35 〕

① 智	② 義
③ 信	④ 礼

〔 36 〕

① 克己	② 孝悌
③ 忠恕	④ 忠信

問2 下線部(a)に関連して、おもいやりを意味する語として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[37]

- ① 恕 ② 忠 ③ 信 ④ 仁

問3 下線部(b)に関連して、まごころを意味する語として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[38]

- ① 恕 ② 信 ③ 忠 ④ 仁

問4 次の論語からの引用文に含まれている説明として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。[39]

顔淵、仁を問う。子曰く、己に克ちて礼に復するを仁と為す。一日己に克ちて礼に復すれば天下仁に帰す。仁を為すは己に由る、而うして人に由らんや。顔淵曰く、請う、その目を問わん。子曰く、礼に非ざれば視ること勿れ、礼に非ざれば聴くこと勿れ、礼に非ざれば言うこと勿れ、礼に非ざれば動くこと勿れ。顔淵曰く、回、不敏と雖も、請う、斯の語を事とせん。

- ① 仁とは己のやりたいことを実行するために礼を行うことである。
② 礼にかなわないものをしっかり見とどけることが仁の眼目である。
③ 仁を行うのは自分自身の力によるものであり、他人によるものではない。
④ 顔淵は孔子の言葉を理解できなかったので、それを謝罪した。

問5 次の論語からの引用の中の間欄 [40] に入る語として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

子曰く、吾十有五にして [40] に志す。三十にして立つ。四十にして惑わず。五十にして天命を知る。六十にして耳順う。七十にして心の欲するところに従いて、矩を踰えず。

- ① 学 ② 道 ③ 徳 ④ 礼

問6 五経についての説明として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。[41]

- ① 礼記は、魯の隠公元年（前 722）から哀公 14 年（前 481）に至る春秋時代 242 年間の国家的大事を略記した年代記である。
② 詩経は、中国最古の詩集であり、黄河流域の諸国や王宮で歌われた詩歌 305 首を収めたものである。
③ 易経は、占いのためのテキストで 64 種類の象徴的符号の卦と、そのおのおのに付された短い占断の言葉から成っている。
④ 書経には、堯・舜の世の記録、禹および夏王朝の記録、文王、武王、周公を主人公とする記録などが描かれている。

第5問 次の文章を読み、下の問い（問1～問5）に答えよ。（配点 18）

(a)『孟子』によると、幼児が井戸に落ちかけているのをみれば、だれでもこの子を助けようとするであろう。それは、人命救助という名声を得るためでも、幼児の親と親しくなるためでもない。幼児を救おうという純粋な気持ちは、だれもがうまれつきもっている〔 42 〕の心のあらわれであり、この他人の不幸をみすごせない同情心が、仁の端緒（芽ばえ）になる。同様に、人間にはうまれながらに、自分の悪をはじ他人の悪を憎む心、他人にゆずりへりくだる心、ものごとの是非善悪を判断する心がある。そして、この四端の心を育てていけば、仁・義・礼・智の四徳が実現されると説いた。

この四徳が心身に充実してくると、天地間に満ちている雄大で力強い浩然の気があらわれる。孟子は、善行を積み重ね、(b)浩然の気を養う者を大丈夫とよび、理想の人間像とした。また、父子・君臣・夫婦・長幼・朋友という基本的な人間関係のあり方として、親、義、別、〔 43 〕、信という五倫の道を示した。この五倫の道は、のちに、仁・義・礼・智の四徳に信を加えた〔 44 〕の教えとともに、儒学の基本的な徳目となった。

四徳のなかでも仁と義を重視した孟子は、政治に関しても、武力などの力によって民衆を支配する〔 45 〕を退け、民衆の幸福をはかる(c)王道政治を強調した。そこからさらに、王の徳をもたず民意にそむく君主への(d)易姓革命の思想を展開した。

孟子の性善説に対して、同時代の荀子は、孔子の礼の教えを継承しながらも、性悪説を唱えた。荀子によれば、人間にはうまれつき利を追い求め、人を憎む傾向があるため、自然のまま放置すると争乱におちいる。それゆえ、人間の本性は悪と考えるしかない。彼は、社会の秩序を保つためには、欲望に流される利己的な本性を、〔 46 〕必要があると説いた。

問1 文章中の空欄〔 42 〕～〔 46 〕に入る最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

- [42] ⎧ ① 羞 惡 ② 惻 隱
 ⎨ ③ 是 非 ④ 辞 讓

- [43] ⎧ ① 序 ② 忠
 ⎨ ③ 恕 ④ 敬

- [44] ⎧ ① 五 戒 ② 五 行
 ⎨ ③ 五 常 ④ 五 大

- [45] ⎧ ① 礼 治 ② 王 道
 ⎨ ③ 法 治 ④ 覇 道

- [46] ⎧ ①天道としての理を学び、理に従うことによって本来の性を回復する
 ⎨ ②規範としての法を身につけさせることによって、人為的に矯正していく
 ⎩ ③自然の本質としての道に従うことによって、作為を捨てる
 ④規範としての礼を身につける努力と教育によって、人為的に矯正していく

問2 下線部(a)に関して、次の『孟子』からの引用文中の空欄〔47〕に入る語として最も適切なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

人皆、人に〔 47 〕の心ありと謂う所以の者は、今、人乍に孺子の將に井に入らんとするを見れば、皆怵惕・惻隱の心有り。

- ① 忍びざる ② 君去らず ③ 為すなくす ④ 囚われず

問3 下線部(b)に関して、次の『孟子』の現代語訳の引用文中の空欄〔48〕に入る語として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

「おたずねしますが、浩然の気とはどういうものですか」

「ことばで定義することは困難だ。浩然の気というのは、何ものよりも大きく、どこまでも広がり、何ものよりも強く、ちっともたわみかがむことなく、まっすぐに育ててしまえば天地のあいだにいっぱいになる。また、この気というのは、〔48〕と道とから離れることはできない。もし分離すると植えて気は死んでしまう。浩然の気は、〔48〕を行ったのが積み重なって発生したものであり、〔48〕が浩然の気を突発的に取り込んだのではないのである。

- ① 仁 ② 智 ③ 義 ④ 礼

問4 下線部(c)に関して、次の王道についての説明文中の空欄〔49〕に入る語として最も適切なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

当時の諸侯は武力によって他国を圧倒し、天下に号令できる覇者になることを求めていた。しかしこの武力による征服・支配では民心が離反し、結局は国を滅ぼすとして、孟子はむしろ仁愛によって民心を帰服させる王道こそが天下統治への道であるとした。領土や軍隊の大小よりも、民心の把握いかんが統治の要諦であるとした。孟子のこの議論は、諸侯の欲望を踏まえたうえで仁愛の徳治を説くものであった。この王道を支えるのは功利の念ではなく〔 49 〕の心である

- ① 礼智 ② 仁義 ③ 無為 ④ 孝悌

問5 下線部(d)に関して、易姓革命の説明として最も適切なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。〔50〕

- ① 民を苦しめる統治を行うと天変地異が起きる。
② 民を苦しめる統治を行うと民が革命を起こす。
③ 民意にそむく暴君は天により治者の地位から追放される。
④ 民意にそむく暴君は暗殺されても文句は言えない。

これで問題は終わりです。